

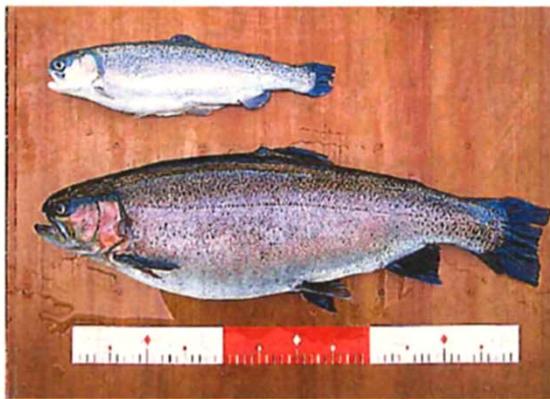
ニジマス サーモン 効率的な繁殖法確立

県産業技術センター内水面
研究所（十和田市）の沢目司
技能技師（57）＝写真＝が6年
間にわたって丹念につけてき
た成育記録が、ニジマスやサ
ーモンを効率
的に繁殖させ
る手法の確立
につながっ
た。魚体が小
さくても産卵できることが分
かり、施設内に小さな水槽を
数多く設置して養殖試験を同
時に進められるようになった
ことで、同研究所のサーモン
新品種の早期開発に寄与し
た。沢目さんは15日までの取
材に対し「成育記録を細かく
つけるという飼育員の仕事が



内水面研究所(十和田) 沢目さん

役立ってよかった」と喜びを
語った。
ニジマスやサーモンは、大
きく育つほどよく産卵すると
考えられていたが、沢目さん
は年によって卵を産む魚の割
合にばらつきがあることに着
目。ニジマスを1匹ずつ、生
後6カ月から24カ月まで1カ
月ごとに体重や卵のふ化率な
どを測定した。



これまでの親魚（体重470
0g）⑤と沢目さんの発見に
より小型化した親魚（700
g）⑥＝県産業技術センター
内水面研究所提供

2005年から10年までの
6年間で約2400匹分のデ
ータをとって分析した結果、
生後6カ月時点で一定以上の
大きさに育っていれば、それ
以降無理に魚体を大きくしな
くとも産卵できることが分か
った。これにより施設内に設
置できる水槽の数が増え、以
前は8系統程度で行っていた
養殖が18系統に増えた。

6年間の成育記録 実る

数多くの養殖試験を行う中
で、同研究所や県が今年から
特産品化を進めている大型の
ニジマス「新サーモン」が生
まれた。同時に飼育できる系
統数が増えたことで、同研究
所はニジマスやイワナ、ヒメ
マスなどを交配した6通りの
新品種を作り出すことにも成
功。現在も試験を続けている。
十和田市生まれで30歳から
魚の飼育業務に携わっている
沢目さん。今年4月には優れ
た技術者に与えられる文部科
学大臣表彰の創意工夫労働者
賞を受賞している。「成育記
録を細かくつけることなら自
分でもできると思った。今は
同じ餌の量で魚をより大きく
育てる方法を試している。こ
れからも飼育方法を改善して
いきたい」と語った。
(海野良拓)

平成30年7月16日 東奥日報 掲載

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。